

令和元年11月29日



12月 釜小だよ

横浜市立釜利谷小学校

釜小Web <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kamariya/>

12月は、まとめと発信

校長 菊池 幸博

令和元年もあとひと月、年の瀬を迎えようとしています。皆様にとってこの令和スタートの年はどのような年だったでしょうか。(私事で大変恐縮ではありますが、4月に釜利谷小学校の校長として着任した令和元年は、個人的には激動の年であり、忘れられない年となりました。)

学校の一年は4月に始まり3月に終わりますが、学校でも年末は様々な区切りの活動に取り組みます。保護者の皆様にもご協力いただき、個人面談や学校アンケート、また子どもたちの活動では、大掃除や書初めの練習なども新しい年を迎えるためのこの時期特有のものであります。一つの区切りのためにしっかり準備をして、気持ちのいい新年を迎えられるようにしたいところです。

さて、多くの学年で校外学習や出前授業で校外から講師をお招きしてという学習スタイルが多かった11月ですが、今月は「釜利谷フェスティバル」を開催いたします。この釜利谷フェスティバルは、これまでの学習を生かして、1・2年生では生活科を、3～6年生では総合的な学習の時間の学習等を中心に、“何を学ぶ”かという「目的意識」と“誰に向けて”という「相手意識」をもちながら、学びのプロセス“どのように学ぶか”を各学級や学年で子どもたちと一緒に考え、試行錯誤をしながら形にして発表につないでいくものです。

11月には特に多かった校外学習ですが、その前から着々と積み重ねてきた「本物に触れる」活動や「本物から学ぶ」活動は、子どもたちの学びへの関心を高めるだけでなく、学んだことを発信したいという意欲や発信への自信にもつながっていきます。

内容的には、身近な暮らしからねらいを設定し、季節の変化と自分たちの暮らしを結び付けた学習や、生活科や国語、社会、理科等の学習を「発展」させ、福祉系の学習・環境系の学習・地元密着型の学習などなど、学年や学級の特徴を生かしながら取り組んだものが、当日に見られます。子どもたちの「学びのねらい」や「学びのプロセス」などに注目しながら参観いただければと思います。



昨年度の釜利谷フェスティバル内容